

関東太地会だより

梅の便りに想いをつなぐ

関東太地会 岡本 司

早いもので、新しい年を迎えたと思っておりましたら、もう梅の花の季節となりました。

年々、季節の移り変わりが早く感じられるようになりましたね。

関東太地会では、「鯨波」をお届けする際に、『まめなかに』という会員向けのお手紙を同封しております。

その中で、今年の干支「午(うま)」にちなんだお話を書きました。

若い方には、駿馬のように元気よく。

働き盛りの方には、力強く。

そして私を含め、年齢を重ねた者は、「馬齢を重ねる」という言葉のとおり、これまでの経験を大切にしながら、落ち着いた歩みを重ねてい

たら――。

馬が一步一歩、しっかりと地面を踏みしめて進むように、そんな一年であってほしいものです。

とはいえ、年を重ねた私です。日々は驚くほど早く過ぎていきます。

足腰には、少しずつ無理がきかなくなってきましたが、気持ちだけはなるべく前を向いていたいと思っています。

梅の花といえば、若い頃は満開の桜に心惹かれていました。けれども、いつの頃からでしょうか、寒さの中で「春はもうすぐですよ」とそっと知らせてくれる梅の花に、自然と目が向くようになりました。

和歌山といえば梅の名所が思い浮かびますね。白や紅の小さな花が、健気に咲いて

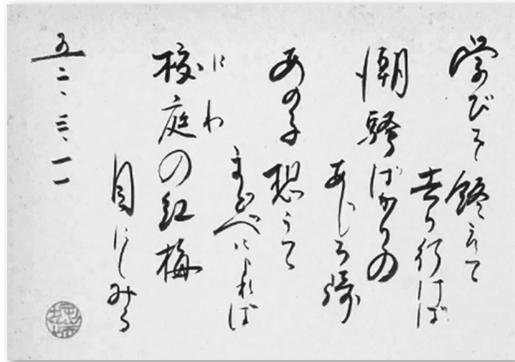


太地の梅の花

いる姿を見るたびに、今年も元気をもらっています。中学校の卒業アルバムの最後には、担任の先生やお世話になった先生方

から、ひと言ずつ言葉を書いていただきました。

その中で、当時の堀端平校長先生は、次のような一文を添えてくださいました。



今読み返しても、青春のページをそのまま切り取ったような言葉で、今でも心に深く残っています。

さて、鯨波正月号では関西太地会の総会・懇親会の様子が紹介されておりました。

関東太地会でも、来る4月19日(日)に、三十三周年(第三十一回)となる総会・懇親会を開催する予定です。

会場は、太地町の方々になじみの深い、横浜の「アパホテル&リゾート横浜ベイタワー」です。

第一回の総会・懇親会は、御茶ノ水駅近くのホテル聚楽で開かれました。

私はそのときから参加させていただき、それがきっかけで世話役のお手伝いもするようになりました。

当時まだ三十一歳だった私



アパホテル&リゾート 横浜ベイタワー 3階
横浜市のみなとみらい21地区と関内地区に位置し、付近には「横浜赤レンガ倉庫」、「横浜中華街」、「横浜ランドマークタワー」など日本有数の観光名所が徒歩圏内。

は、先輩方から太地町の歴史や親戚の話などを伺いながら、少しずつ太地への思いを深めていきました。

気がつけば、すっかり「太地が好き」な一人になっていったように思います。

今では、後輩の方や太地にご縁のある皆さまに声をかけ、関東・関西両太地会への参加をお勧めしています。

どうぞ気軽に、「あんたもいこら」と声をかけ合っていただけばうれしいです。



地町出身者や太地にゆかりのある方々が集い、郷土太地とのつながりを大切にしながら活動を続けてきました。

地元を離れて暮らす私たちにとって、太地会は人と再会し、ふるさとを思い出す、ありがたい場でもあります。

先輩方の思いを受け継ぎながら、若い世代にも関心を持ってもらえるよう、声かけや広報にも努めておりますが、会員数を増やすことはなかなか難しいのが現状です。

それでも「太地町のために、今できることを」という思いを大切にしながら、町とのご縁をつなぐ活動を続けてまいりました。

「鯨波」への寄稿、「まめなかに」による町行事の紹介、関西太地会による小学生の修学旅行時の瑞光寺(雪鯨橋)への慰問など、小さな歩みではありますが、続けることに意味があると感じています。

また昨夏の「二十歳の集い」では、関東・関西両太地会の会長が、太地会の紹介と



横浜赤レンガ倉庫



横浜中華街



横浜ランドマークタワー

参加のお願いをさせていただきました。

すぐに結果が出るものではありませんが、太地を思う人の輪が、少しずつ広がっていくと願っています。

太地会は、地元を離れた私たちが、太地町とのつながりを保ち続ける大切な場です。

これからも、梅の花が毎年変わらなく咲くように、控えめでも確かな歩みで、人と人、太地町とのご縁を結んでいきたいと思っております。